

プロジェクト名 地域との協働による高等学校教育改革推進事業（文科省）

管理機関：静岡県教育委員会
地域協働推進校：静岡県立熱海高等学校

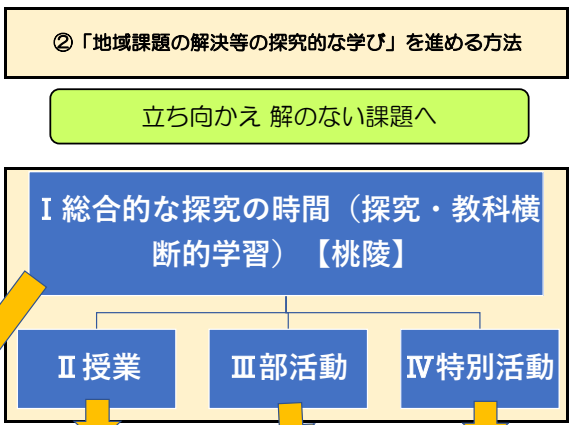
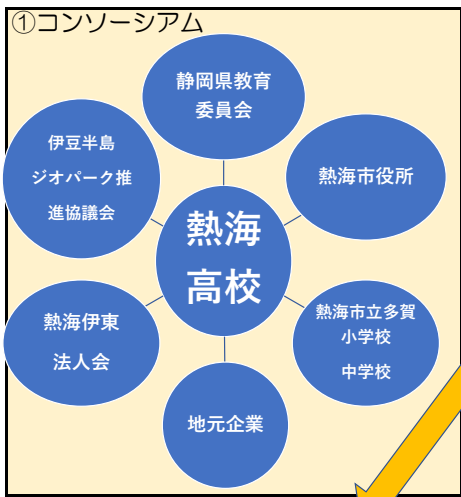


プロジェクトの趣旨・目的（文科省）
高等学校と市町村、大学、産業界等が協働して①コンソーシアムを構築し、高等学校における②地域課題の解決等の探究的な学びを通して、③未来を切り拓くために必要な資質・能力を身に付けることともに、地域への課題意識や貢献意識をもち、将来、④地域で地域ならではの新しい価値を創造し、新たな時代を地域から分厚く支えることのできる人材（**地域人材**）の育成を図ることとする。

I 研究開発構想名
「外部資源を有効に活用した、地域を担う『人材』の育成～地域に育ち、地域に育ててもらふキャリア教育～」
II 研究開発の概要
地元企業、自治体（熱海市）、熱海伊東法人会、小中学校等と連携・協働することにより、地域課題の解決等の探究的な学びを通して、地域への課題意識や貢献意識を持ち、地域を担う『人材』の育成を図る。
III 研究の目的
全国平均27.7%の高齢化率に対し、47%の熱海市は少子高齢化に伴う人口減少等、現代社会の諸課題を先取りしている地域であり、本校はこうした課題を抱える熱海市に所在する唯一の高等学校である。そこで、総合的な探究の時間や各教科等における教科横断的探究活動を通して、将来の日本の地域社会を先取りした熱海市の課題を自分のこととして捉え、地域と協働することによりその解決方法を自立的に探り、さらに熱海ならではの新たな価値の創造を目指す人材を育成することを目的とする。

④どんな地域人材を育成するのか？=熱海人（あたまんちゅ）

①「課題先進地域」2050年の日本の地方都市「熱海」が抱える課題を「自分事」としてリアルに考え、	②どんなに困難な課題であってもあきらめずじじがみ付き、	③高校生の特権である正義と公正と理想を武器にひるむことなく大人と渡り合い、
④現実に直面し、くじけそうになっても、仲間と協力し新たなアプローチを考え出し、	⑤見返りを求めず、地域住民の喜ぶ顔を見て良かったと思ひ、	⑥たとえ、熱海でないとこかであっても同様にその地域の抱える課題に立ち向かい、地域のために貢献できる人材



③未来を切り拓くために必要な資質・能力 ⇒ 熱海高校で育成する3つの能力

<p>探究力</p> <p>読解力、文章表現力、数的処理能力</p> <p>価値の創造、好奇心、知識欲、解決欲求</p> <p>表現力、思考力、判断力</p>	<p>主体性</p> <p>リーダーシップ、自発的、自主的、積極性、自律性、やり抜く力</p> <p>企画力、創造力、提案力</p>	<p>協調性</p> <p>コミュニケーション能力、共感性、チーム志向、敬愛、協力</p> <p>フォロワーシップ、多様性、寛容、受容</p>
--	---	--

<本校の教育方針>

- 自発的に学習し、自主的に判断し、自律的に行動できる人間の育成
- 民主的な社会の形成者として、敬愛と協力の精神を持ち、誠実に生き、かつ働く健康な人間の育成
- 故郷を大切にし、将来にわたり地域を支える人間の育成

I 総合的な探究の時間（桃陵）

- 地域課題のテーマ設定、解決方法
 - 「観光」観光と地場産業
 - 「福祉」高齢化、バリアフリー
 - 「防災」津波対策
 - 「国際交流」外国人労働者
 - 「エネルギー資源」温泉活用
- 企業、自治体と協働し企業が求める人材の考察を通し、将来の生き方を考える。

現在の熱海
年少人口 3%
生産年齢人口 50%
高齢人口 47%

生活保護者率 1.67
静岡県 ワースト2位

30代未婚率全国ワースト1位 48.5%

空家率 50.7%
静岡県 ワースト1位

II 授業での取組例

- 商業 高校生ホテル、ツアープラン、商品開発、実習、起業家育成プロジェクト
- 福祉 多賀小との交流、実習、介護食の開発
- 英語 観光チラシの作成、街頭インタビュー対策
- 国語 効果的なインタビュー、プレゼン方法
- 社会 熱海の史跡（神社等の歴史）
- 理科 熱海のジオ
- 家庭 熱海特産品の調理法開発
- 保体 健康増進（温泉の効用）
- 数学 データ分析等

III 部活動での取組

- ・エイサー部、ボランティア部
 - 地元施設訪問、イベントでの発表、手伝い等の地域貢献、異校種交流
- ・運動部
 - 地元祭りへの参加
- ・報道部
 - 企業とコラボした広報誌作成

IV 特別活動

- ・熱海市2030会議参加、子ども食堂開催
- ・社会人講話